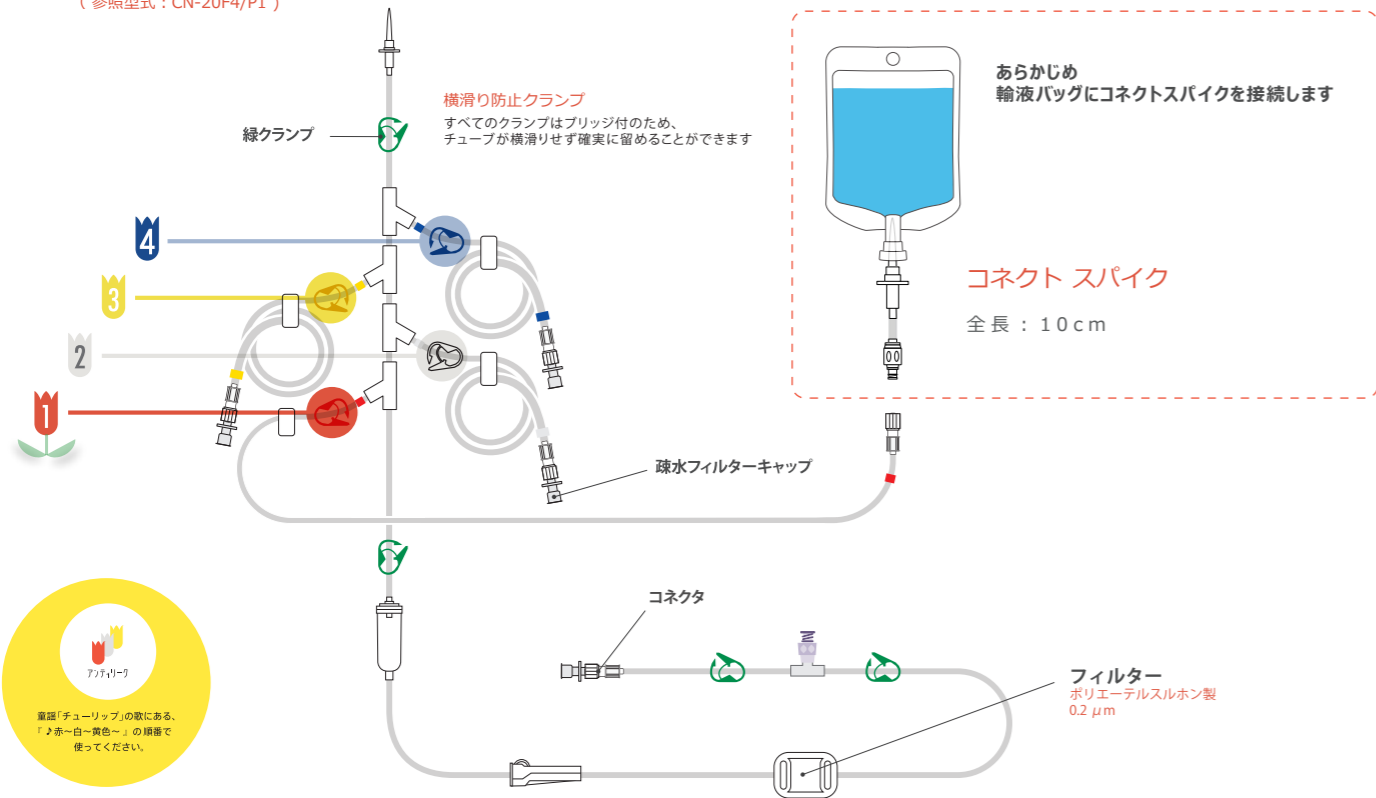


アンティリーク コネクト

(参照型式: CN-20F4/P1)



シール	側管数	フィルター	ポート	下部形状	チューブ径	型式
	4本	有	1		標準径	CN- 20F4/P1
		無	1		細径	CN- S20F4/P1
	2本	有	1		標準径	CN- 20N4/P1
		無	1		細径	CN- S20N4/P1
	2本	有	1		標準径	CN- 20F2/P1
		無	1		細径	CN- S20F2/P1
	コネクト スパイク	—	—	—	—	CN-40W

製品仕様	製品仕様
チューブ材質	DEHP フリー
点滴筒	20 滴
メインルート全長	2300mm (CN) ・ 100mm (CN-40W)
側管チューブ長	下流側から、525mm ・ 500mm ・ 475mm ・ 450mm (CN-20タイプ)
包装単位	10個 / 箱 (CN-20タイプ) ・ 100個 / 箱 (CN-40W)

販売名: AL接続セット 製品名: コネクト スパイク 一般名称: 輸液用延長チューブ 薬事届出番号: 09B1X00004000164 クラス分類: 一般医療機器  
 製品名: アンティリーク コネクト 一般名称: 自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット 薬事承認番号: 21100BZZ00643000 クラス分類: 管理医療機器

販売元 **株式会社 コビヤ**  
 〒651-0084 兵庫県神戸市中央区磯辺通2丁目2番16号 三宮南ビル7階  
 TEL: 078-414-8282 FAX: 078-414-8281 <https://www.kbjapan.co.jp>

製造販売元 **FGM フォルテ グロウ メディカル 株式会社**  
 〒327-0003 栃木県佐野市大橋町 1647 番地  
<http://www.fgm.co.jp>



完全一体型 輸液セット

— アンティリーク コネクト —

アンティリーク<sup>®</sup> CONNECT 完全密閉方式

— 穿刺しない形状、チーム医療のつなぎ役 —

「外さない」曝露 / 感染 対策は、アンティリーク<sup>®</sup>

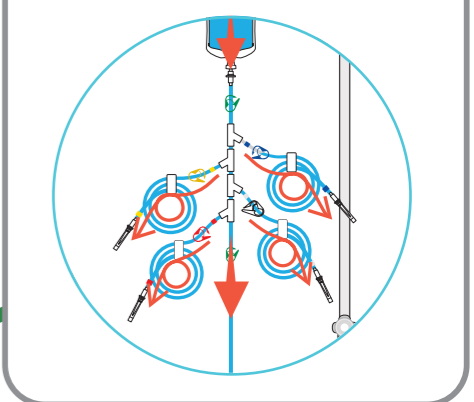
びん針接続をしない 新しいかたち

外さない  
漏らさない  
感染させない

一体型の特長 (閉鎖型 密閉方式)

- 曝露/感染リスク対策の両立**  
 ・ 抗がん薬投与後に、輸液バッグを外さないため、薬液の漏出がありません
- 投与手順の標準化/業務の高効率化**  
 ・ 側管クランプの色分けにより、投与手順の標準化が可能です
- コストの可視化/病院経営への貢献**  
 ・ 一体型にすることで感染リスクを低減します

オートプライミング機構  
 \* 曝露対策から生まれた (特許取得済) <http://antileak.jp>



**準備**

1 開封前に側管数およびフィルターの有無を確認します。

側管数	シール
2本	
4本	

2 各側管キャップに緩みや脱落がないことを確認し、ローラークレンメのみを閉じて下さい。

\* 各側管ルートは、セパレーターから外さずに準備してください。外れた場合は、はめ直してください。

1 メインルートのピン針を、生理食塩水の輸液バッグに上から下へしっかりと刺入して下さい。

2 点滴スタンド等に輸液バッグを吊ると、上部側管ルートのプライミングが開始されます。

3 上部側管ルートのプライミングが終了したことを確認し、液溜まりを作るために点滴筒を逆にして下さい。

4 ローラークレンメをゆっくり開放し、点滴筒内に液溜まりを作ります。三分の程度まで溜まりましたら、点滴筒をもとの位置に戻して下さい。下部ルート内のプライミングが開始されます。

5 ルート内が完全に充填されると、プライミングは自動で終了になります。

6 エアが完全に抜けたことを確認し、メインルートの緑クランプ①と全ての側管クランプ、およびローラークレンメを閉じて下さい。

**投与**

1 赤の側管ルートから使用します。赤の側管ルートの疎水フィルターキャップを外します。

2 輸液バッグに装着されているコネクタスパイクと、赤の側管ルートのローロック部分を接続します。

3 赤クランプを開放し、点滴筒を軽く押します。(コネクタスパイク内のプライミングのため)

4 ローラークレンメで速度を調節しながら投与を開始します。

5 投与が終了したら赤クランプを閉じてください。空になった輸液バッグからピン針を抜かないでください。

6 2剤目以降の投与がある場合は、白、黄、青の順番で同様にご使用ください。

1 全ての投与が終了したら緑クランプ①を開放し、メインルート内を生理食塩水でウォッシュアウトして下さい。

2 HDの入っていた輸液バッグは接続を外さず、アンティリークと一体のまま、ジッパー付きプラスチックバッグに入れて密封してから専用の廃棄容器に廃棄して下さい。

**廃棄**